小学校英語を互いに学び合う「ＡＥＥＮ」（旭川英語教育ネットワーク）を立ち上げて、早いもので５年が過ぎしようとしている。設立当初１７名の会員が、現在では８０名を越える大所帯になった。年７回開催するワークショップや授業研究会は、いつも先生方の熱気で溢れ返っている。

私は、平成１３年度、北海道教育委員会より小学校英語活動指導法研究のため、アルバータ州立大学へ短期派遣をしていただいた。

小学校英語活動で第二言語指導法（開発した O.Bilash 博士の名前から B-SLIM と呼んでいる）を導入し、全校体制で取組を進めた実践は珍しく、今年４月まで勤務していた旭川市立日章小学校では、この指導法を共有化することにより、ほとんどの教師が英語活動を行えるまでになった。

平成１５年度日本英語検定協会の研究助成を受け、報告書をまとめた際にご指導いただいた小池生夫先生（明海大学教授）から、「・・・第２言語習得理論を導入した小学校での成功例であり、今後多くの学校のモデルとなる内容・・・」と高く評価していただいた。

英語は楽しい～

６月中旬、体験入学のため Darius 君（米国人・６年生）が約一ヶ月ほど学級の仲間に加わった。

何とかコミュニケーションをとりたいと願う子どもたちから、「先生、英語活動やらないの～。」というリクエストが来るのに時間は要しなかった。

早速、「君たちは、どんなことを話したいの。また、どんな言葉を使いたいの？」という投げかけに、子どもたちは即座に反応し、リクエストシートはあっという間に多くの言語材料で埋まった。

私が英語活動を行うときに最も大切にしている「子どもたちのニーズに基づいた英語活動」を実践する絶好の機会であった。「学校紹介」・「案内」・「文化」等に関する言語材料を取り上げ活動を進めた。

さらに、ちょうど算数の単元がが『計算のきまり』であったため、これまで学習した「四則計算」を英語で行ってみた。
「Four times three equals twelve」
「Twenty devided by five equals four」等子どもたちが次々に先生役になり、Darius 君とティームティーチングを進めながら、大盛り上がりの１時間であった。

小学校における英語活動は、中学校とは異なり、英語が楽しいと感じる子どもを一人でも多く育み、外国の人や文化に積極的にかかわろうとする態度を育てていくことあると考えている。

B-SLIM で行う英語活動は、INPUT の段階で十分な時間を割き、アクティビティをスモールステップ構成するため、「楽しく身に付く英語」を実現することが可能なのである。 実施後の自己評価で常時９０％以上の子どもたちが、「楽しかった」「また英語をやりたい」「よくわかった」と回答しているのは喜ばしい限りである。

グループアプローチを位置づけた学級経営

私は十数年前から、「構成的グループエンカウンター」（ＳＧＥ）や「ソーシャルスキル」などを積極的に取り入れ学級経営に位置づけ、実践を進めてきた。

今年度は５年担任ということもあり、４月当初より「他者理解」と「信頼体験」をねらいとしたエクササイズを道徳や学級活動に重点的に取り入れ実践をしてきた。

経験の浅い子どもたちにとっては、私が期待する「シェアリング」にはあまり興味を示さず、エクササイズが全てという感じは否めないものの、「一人ひとりの子どもたちが深いところでつながる学級」づくりには、大きな効果がある。

先日、国語科の『ニュースを伝えよう』の単元の発展的な学習として『なりきりインタビュー』というＳＧＥのエクササイズを取り入れてみた。

子どもたちのアナウンサーとしての迫真の演技？にビデオを回す私の笑い声が至る所に録画されていた。

グループアプローチと英語活動の融合を目指して

現在私は、ＳＧＥ等のエクササイズを簡略化し、英語活動のアクティビティーとして活用する試みに取り組んでいる。

「自然と言えば？」や「進化ゲーム」（ＳＧＥ）「あいさつリレー」（ソーシャルスキル）等の英語版の他にも、「やおやさん」（ピアサポート）をベースにして、全国的に有名になった地元動物園をモチーフに「Asahiyama Zoo」という Warming-up を創作した。

今後、これらを学年別に構造化し、子どもたちの生き生きとした学びを創り上げるための一助にしていきたいと考えている。